

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		小学校図書・教材等購入事務		担当課	学校教育課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成14年度～
	施策	学校教育の充実		種別	任意の事務
	基本事業	確かな学力の育成		市民協働	その他
予算科目コード		01-100202-02 単独	根拠法令・条例等	学校教育法	

なぜ、この事業を実施しているのか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
公立義務教育諸学校の学校図書館の図書購入に要する経費の地方財源措置の通知（H14年4月文部科学省）により、備品購入事務から独立して実施した。	各教科で必要とする教材の整備，老朽化に伴う教材備品の入替え及び児童用の図書を整備する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
小学校で必要な教育教材を整備することにより，児童への教育効果を高める。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒に，基礎的，基本的な知識及び技能を習得させる。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☐維持 ☐削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
充足率を維持するため、図書の除籍等に応じて継続して効果的な予算配分をする。	学校図書標準が達成されていない学校に重点的に予算配分し、図書充足率の均衡とともに、全体の充足率の維持を図った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
図書購入数（冊）	2, 324. 00	2, 337. 00	3, 349. 00	3, 350. 00	3, 350. 00
小学校図書充足率（％）	106. 00	106. 00	107. 00	110. 00	110. 00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	学校図書標準が達成されていない学校の充足率を向上させ、そのほかの学校の充足率を維持した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 □ 維持	■ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	全ての学校での学校図書標準達成を図る。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	9,602	28,325	11,504	11,720	11,720
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	9,602	28,325	11,504	11,720	11,720
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	17.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	70	0	0
トータルコスト		9,602	28,325	11,574	11,720	11,720

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		中学校図書・教材等購入事務		担当課	学校教育課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成14年度～
	施策	学校教育の充実		種別	任意の事務
	基本事業	確かな学力の育成		市民協働	その他
予算科目コード		01-100302-02 単独	根拠法令・条例等	学校教育法	

なぜ、この事業を実施しているのか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
公立義務教育諸学校の学校図書館の図書の購入に要する経費の地方財源措置の通知（H14年4月文部科学省）により、備品購入事業から独立して実施した。	各教科で必要とする教材の整備，老朽化に伴う教材備品の入替え及び，生徒用の図書を整備する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
中学校で必要な教育教材を整備することにより，生徒への教育効果を高める。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒に，基礎的，基本的な知識及び技能を習得させる。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☐維持 ☐削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
充足率を維持するため、図書の除籍等に応じて継続して効果的な予算配分をする。	充足率を維持するため、図書の除籍等に応じて継続して効果的な予算配分をした。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
図書購入数（冊）	1, 168. 00	910. 00	800. 00	800. 00	800. 00
中学校図書充足率（％）	111. 00	112. 00	109. 00	110. 00	110. 00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	学校図書標準を満たしており、これを維持しながら、生徒に利活用される図書を整備継続していくものである。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	学校図書標準を維持するため、図書の除籍等に応じて継続して効果的な予算配分をする。				

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	8,836	7,054	14,531	6,270	6,270
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	7,334	0	0
	一般財源	8,836	7,054	7,197	6,270	6,270
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	15.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	62	0	0
トータルコスト		8,836	7,054	14,593	6,270	6,270

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		教育支援事業		担当課 指導室
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 昭和51年度～
	施策	学校教育の充実		種別 法定事務
	基本事業	確かな学力の育成		市民協働
予算科目コード		01-100103-02 単独	根拠法令・条例等	守谷市教育支援委員会条例・同規則 文科省「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
文部科学省「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について」（通知）に基づき、守谷市障害児就学指導委員会条例の名称等が変更され、教育支援委員会条例の下、実施している。	学校・保育所・幼稚園・子ども療育教室と連携して特別な支援が必要な子どもを早期に発見し、専門家による個別検査や保護者面談を通して、未就学児から児童生徒までその障がいの程度に応じた教育支援を行う。 就学判定及び支援に当たっては、専門的な知識を有する医師や保健師、特別支援学校長、特別支援学級担当者等で組織された教育支援委員会において調査・審議を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
心身に障がいのある幼児，児童，生徒が，適正な教育支援を受けることで，本人の持つ能力を発揮できるようにする。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒に，基礎的，基本的な知識及び技能を習得させる。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
未就学児に対しては、療育教室、保健センター、保育所（園）、幼稚園等と連携し、情報収集に努めてきたが、年々、該当児童生徒が増加しており、支援が必要な児童生徒全員に対応することが困難になってきている。	未就学児に対しては、これまでの療育教室、保健センター、保育所（園）、幼稚園等との連携だけでなく、今年度立ち上げた守谷市総合教育支援センターとの連携も加え、早期発見・早期対応に努めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
適正就学のための判定件数(含在籍児童生徒)（件）	47.00	84.00	72.00	55.00	55.00
市内保育所・幼稚園訪問回数（回）	53.00	55.00	58.00	55.00	55.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下	総合教育支援センター設立に伴い、教育相談員による保育園・幼稚園訪問が行われるようになり、専門性の高い園児の見取りができるようになった。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□拡大 □縮小 ■維持	□改善・効率化 □統合 □廃止・終了	児童生徒の中で障がいのある子どもたちを対象にしている事業であり、教育を受ける権利を擁護することは市の責務で妥当である。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	262	112	97	143	143
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	262	112	97	143	143
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	351.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	1,439	0	0
トータルコスト		262	112	1,536	143	143

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		語学指導協力員配置事業		担当課 指導室
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成14年度～
	施策	学校教育の充実		種別 任意的事務
	基本事業	確かな学力の育成		市民協働
予算科目コード		01-100103-06 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
国際化に伴い、日本語の理解が困難な児童生徒に対し、日本語指導及び生活指導を行うため、平成14年度から実施している。	日本語の理解や表現が十分でない児童生徒のために、語学指導協力員を配置し、日本語指導を行う。 該当児童生徒の母国語及び日本語の両方が理解できる語学指導協力員を配置し、週2日、それぞれ約2時間個別に日本語指導を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
日本語が上達し、理解できることにより、学校生活及び学力が向上し、該当児童生徒にとって、学校が「学びの場」として機能する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒に、基礎的、基本的な知識及び技能を習得させる。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
中国語を母語とする2人の児童に対して支援を行い、学校生活や学習活動への適応を円滑にした。	韓国語を母語とする児童に対する支援で成果を収めるとともに、韓国語で支援できる人材をバンク化することができた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
日本語指導の必要な児童生徒の人数（人）	1.00	2.00	3.00	2.00	0.00
語学指導協力員数（人）	1.00	2.00	3.00	2.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下		平成28年度は、中国語の他、韓国語の語学指導協力員を配置した。			
今後の事業の方向性（→その理由）					
■拡大 □縮小 □維持 □改善・効率化 □統合 □廃止・終了		英語以外が母国語（中国語、韓国語、ポルトガル語など）という外国人の割合も増加傾向にあり、様々な国籍の児童生徒が市内公立学校に就学することが考えられる。学校が「学びの場」としての機能を十分に発揮するためにも、語学指導員は必要である。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	11	53	89	64,939	64,939
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	11	53	89	64,939	64,939
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	14.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	57	0	0
トータルコスト		11	53	146	64,939	64,939

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		オリジナルティーチングプラン事業		担当課 指導室
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成19年度～
	施策	学校教育の充実		種別 任意的事務
	基本事業	確かな学力の育成		市民協働 その他
予算科目コード		01-100103-13 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
第一次総合計画に定める「心豊かな教育文化プラン」に基づき、独自の学校づくりを進めるため、平成19年度から実施している。	教職員を対象に取り組んでみたい活動を募集し、教育委員会で審査を行い、次年度の採用を決定する。 平成28年度実績 大井沢小：「体力アッププラン」を通した児童の投力の育成 高野小：子ども新聞の活用を通した表現力の育成 御所ヶ丘小：主体的・協働的な学びを実現するための教育活動の在り方～思考ツールやICT機器の活用によるアクティブラーニングの充実を通して～
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
特色ある教育活動の一層の推進のため、現場の教職員の発想やアイデア、プランを生かした教育活動の実現を目指す。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒に、基礎的、基本的な知識及び技能を習得させる。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
教員のアイデアを生かした授業づくりを推進し、学校教育の充実に成果を上げている。	創意工夫を生かした各校の取組は、教員の指導力向上、児童生徒の学習意欲の向上、主体的な学びにつながっており、学力向上に効果的である。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
オリジナルティーチングプラン実施件数（件）	0.00	0.00	3.00	3.00	3.00
オリジナルティーチングプラン応募件数	4.00	7.00	3.00	5.00	5.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下	児童生徒の学力向上を目指し、教職員のアイデアを生かした授業づくりを推進している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□拡大 □縮小 ■維持	□改善・効率化 □統合 □廃止・終了	学校教育の充実において本事業は十分な成果を上げており、これ以上の向上の余地はない。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	347	350	245	350	350
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	347	350	245	350	350
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	11.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	45	0	0
トータルコスト		347	350	290	350	350

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		社会人 T T 配置事業		担当課 指導室
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成14年度～
	施策	学校教育の充実		種別 任意の事務
	基本事業	確かな学力の育成		市民協働
予算科目コード		01-100103-14 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成14年度から県の事業として、ティームティーチング授業を実施するために非常勤講師を配置している。	教室内で二人の教師が役割を分担して授業を行うティームティーチング（T T）非常勤講師を、少人数指導加配の無い学校に配置する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
児童個人の学習状況に応じた（個に応じた）きめ細やかな教育を受けられるよう、学習集団を少人数学級化して習熟渡別に授業を行ったり、教室内で二人の教師が役割を分担して授業を進めるティームティーチング授業を行ったりする。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒に、基礎的、基本的な知識及び技能を習得させる。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
社会人 T T を配置した結果、児童へのきめ細やかな指導ができ、落ち着いた学習環境を維持することができた。	本年度は、全校に少人数指導を配置する事ができた。そのため、社会人 T T を配置することはなかった。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
非常勤講師（社会人 T T）が実施した授業時間数（時間）	2, 100. 00	1, 050. 00	0. 00	1, 050. 00	1, 050. 00
非常勤講師（社会人 T T）配置校数（校）	2. 00	1. 00	0. 00	1. 00	1. 00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	本事業は、学校生活にうまく適応できない児童や学力に不安のある生徒の問題解消に成果が見られる。保護者や地域住民から信頼される学校づくりをする上でも大きく貢献している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	配置校、人数、授業時数ともに適切であり、向上の余地はない。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	3, 602	1, 793	0	0	0
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	3, 602	1, 793	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00
正職員人件費		0	0	0	0	0
トータルコスト		3, 602	1, 793	0	0	0

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		学習支援ティーチャー配置事業		担当課 指導室
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成21年度～
	施策	学校教育の充実		種別 任意的事務
	基本事業	確かな学力の育成		市民協働 その他
予算科目コード		01-100103-19 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
近年「小1プロブレム」や「中1ギャップ」等，学校生活への不適応が問題となっており，その解消のためのT T指導・少人数指導体制の強化策である。平成21年度から市の独自事業として実施している。	小学校1年生で26人・2年生で30人を超える学級に対して複数で学級を担当する非常勤講師（学習支援ティーチャー）を配置する。 中学校では，1年生の授業を中心に国語・数学・理科・英語の4教科において複数で指導に当たる非常勤講師（学習支援ティーチャー）を配置する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
児童生徒の個性や実態に合わせてきめ細やかな教育指導を行い，基本的な生活習慣や学習習慣が身に付くようにする。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒に，基礎的，基本的な知識及び技能を習得させる。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
学習支援ティーチャーの配置は、保幼・小・中学校の接続を円滑にするために、効果的である。	守谷市の一貫教育を支える本事業の成果は大きく、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」の解消に成果を発揮している。児童生徒は学校生活にスムーズに適応することができ、学力の向上につながっている。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
非常勤講師（学習支援ティーチャー）配置校の割合（％）	0.00	0.00	100.00	100.00	100.00
非常勤講師（学習支援ティーチャー）配置学級の割合（％）	0.00	0.00	100.00	100.00	100.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	本事業は、学校生活にうまく適応できない児童や学力に不安のある生徒の問題解消に成果が見られる。また、保護者や地域住民から信頼される学校づくりをする上でも大きく貢献している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持 □ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	配置校、人数、授業時間数ともに適切であり、向上の余地はない。				

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	67,626	71,837	61,472	0	0
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	67,626	71,837	61,472	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	263.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	1,078	0	0
トータルコスト		67,626	71,837	62,550	0	0

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
総合計画	事務事業名	学力向上サポートプラン事業		担当課 指導室
	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成21年度～
	施策	学校教育の充実		種別 任意的事務
	基本事業	確かな学力の育成		市民協働 その他
予算科目コード		01-100103-20 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
算数科における基礎的・基本的な知識・技能である四則計算の力を確実に身に付けるため、県の事業として平成21年度から実施してきた。	夏季休業中に、4年生までに学習した計算等の知識・技能の定着を図るため、各学級ごとに一人ずつサポーターを派遣し、学級担任と共に児童の学習を支援するというものである。 ・実施期間：1日2時間程度で5日間 ・サポーター：各校に配置されている学習支援ティーチャーを活用する。 ・平成21年度は対象学年が4年生のみであったが、平成24年度から5年生にまで拡大された。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
児童の算数科における基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を目指す。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒に、基礎的、基本的な知識及び技能を習得させる。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
学習支援ティーチャーとして小学校に配置している地域人材を活用することで、学校や地域の実態に応じた指導が行えるなど、確かな学力の育成に貢献している。	今年度も本事業は、確かな学力の育成に貢献してきた。児童の学力向上を支えるものとして重要な取組であったと言える。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
計算力が定着したと感じた児童の割合（％）	0.00	0.00	90.00	90.00	90.00
実施日数（日）	0.00	0.00	5.00	5.00	5.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	児童一人一人に学力の保障をすることは大変重要である。県の一事業ではあるが、今後も市が本事業に積極的に関わることが妥当である。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	時間等は県の指定であり、平成24年度は対象が5年生にまで拡大されたので、これ以上の成果の向上余地は小さい。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	697	695	693	714	714
	国・県支出金	0	0	692	675	675
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	697	695	1	39	39
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	34.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	139	0	0
トータルコスト		697	695	832	714	714

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		小学校サタデー学習支援教室事業		担当課 指導室
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成27年度～
	施策	学校教育の充実		種別 任意的事務
	基本事業	確かな学力の育成		市民協働 その他
予算科目コード		01-100103-23 補助	根拠法令・条例等	守谷市小学校サタデー学習支援教室実施要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
守谷市の教育目標の一つである「基礎的・基本的な知識をしっかりと身に付ける人間の育成」の達成のため、開かれた学びの場として平成27年9月から開始した。	学習指導員8人を配置し、小学校サタデー学習支援教室を実施する。 1 国語・算数を中心とした基礎的・基本的な学習の支援 2 学習方法に関する相談，児童の学習習慣の定着の促進 3 期間：5月から翌年3月までの土曜日（長期休業期間，祝日，年末年始は除く。） 4 時間：午前9時から正午まで 5 場所：守谷中学校地域交流スペース
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市内小学校に在籍する小学校4年生から6年生までの児童を対象に，基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図り，学習に対する興味・関心を高める。	
（参考）基本事業の目指す姿	
児童生徒に，基礎的，基本的な知識及び技能を習得させる。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
半数近くの児童が、学習時間の増加と提出物を忘れないようになったと回答している。基礎・基本の定着に効果的である。 特別な支援を必要とする児童が数名見られ、特定の児童に指導者が個別対応する時間が取られてしまった。	半数近くの児童が、学習時間の増加と提出物を忘れないようになったと回答している。基礎・基本の定着に効果的である。 指導者の確保が課題である。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
勉強する時間が増えた児童（％）	0.00	0.00	52.00	60.00	60.00
宿題を忘れなくなった児童	0.00	0.00	48.00	50.00	50.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下	本事業は、学力に不安のある児童の問題解消に効果が見られる。保護者からの期待も高く、信頼される学校づくりにも大きく貢献している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□拡大 □縮小 ■維持	□改善・効率化 □統合 □廃止・終了	本事業の内容は維持しつつ、平成29年度4月から指導者の報酬を日給7,000円から6,000円に減額する。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	0	1,705	2,251	1,757	1,757
	国・県支出金	0	0	471	1,100	1,100
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	0	1,705	1,780	657	657
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	144.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	590	0	0
トータルコスト		0	1,705	2,841	1,757	1,757